幼稚園に關する諸問題

佐々木　吉三郎

これまで、大分長いお話を致しましたが、今回は、結末として、幼稚園に關する希望、十ケ條を述べて、おしまひとする事に致しませう。

第一、第一生理學心理等の專門家を入れて兒童研究を盛んにする事。幼稚園に關する雜誌には、學者が見るべきやうな論文がないと云ふ事を、度々耳にして居りますが、これは、畢竟、根本的、創作的研究がないと云ふ意味であらうと思ひます。此の點から考へたならば、必ずしも、幼稚園の雜誌ばかりではなく、小學校でも、中學校でも、教育の全般、或は、教育以外の文藝などにも云へる事であるかは知れませぬが、兎も角も、批評は批評であるからして、これは、虛心坦懷を以つて、聞いて置く必要があると思ふ。此の頃は、實驗心理學だの實驗教育學だのが、盛んになつて、來て、折々、幼稚園や小學校にも、生徒を借りに來て、幾つかの問題を立つて、其の統計表を拵へて何か、これまでの人の、ちつとも知らなかつた事柄でも、發見したかの如く、思つて居る人は、無いでもない。又は、問題を依賴して統計を取つて貰つて、御本人は表の上でのみ想像して御座るものもある樣である。實をいへば、こんなのは、實驗といふことに、まだ眞面目な人々ではないので、吾々、始終、小供を扱つて居る者から見ると、あんな人達は、一分間や二分間の問答を種にして、よくもあんなに、羽を生やしたり、根を生やしたりして、大膽な論斷をするものであると驚くのみである。で、私は、一度位やつて見て、直ぐに結論をするやうなことは、あまり賛成しない。始終觀察して居つて、それを、數量的に表はす爲めに、實驗を行ふと云ふのならば、賛成をするが、一寸お子さんを拜借と云つたやうな實驗的研究は、非常に危險なものであると云ふ事を警告して置きた

い。其れ故に、此所で、專門家を入れよと云ふのは、一時依賴して來ると云ふ意味でなくして、幼稚園の職員として始終小供に接せしめようと云ふのである。さうすれば、專門の學術に深い人程、平生の觀察も、一層徹底するわけで、アノ子は、大體こんな性質、コノ子は大方こんな性質であると云ふことが分つて居つて、實は殆ど、統計なんど取る必要はない。毎日小供を觀察して居るのは、やがて毎日統計を取つて居るのと同じ事で、紙にこそ書かないが、頭の中には「あの子はかう」「この子はかう」と云ふ事が、立派に書かれてあるのである。其れを、人に示すのに、數字的統計を取ると云ふ樣になつて、始めて統計が生きて來る。平生の觀察と云ふものは、なか〳〵貴いもので、數年受持つて居た敎師が、一人々々の小供に對する判斷は、實に正確なものである。隨分、吾々の學校にも、一寸借りに來ると云ふ實驗家はあるが、問の出し方が不都合であつたり、小供から見れば、見馴れない人が、分らない言葉で、ものを云つたりするやうなことから、案外、其の結果が妙になつて仕舞つて、低能兒の方が却つて立派な成績を表はして居て、平生出來の良い子が、不結果を來して居ると云ふやうな場合もあつた。又、或る中學校の生徒は、其の問ひ方が氣障であるとか、人を馬鹿にしてをるとか云ふ事をいつて、申し合せてよい鹽梅な事を書かうではないかと云うて書いて出したと云ふ話もある。兎も角も、一寸借りに來た實驗の中には、受持の敎員等が眉をひそめてあんな結果を統計して何が出來るかしらんと、冷笑して居るやうなものも少なくない。寧ろ、こんな宿かりのやうな學者でなしに、虎穴に入らずんば虎兒を得ずと云ふ筆法で、自身から、幼稚園の仕事に關係して長い間の觀察をやつて、然る後に、實驗的研究なり何なりするやうにしたいと思ふ。それでこそ、本當の學術的研究が出て來る事であらうと思ふ。近時、東京女子高等師範學校の附屬

幼稚園に、倉橋文學士の如き、兒童心理の研究を專門とする人が關係して居らるゝ樣であるが、これは、最も愉快とするところで、かかる例を、成る可く普及させたいものである。

第二、保姆養成を盛んにすること。此れまで、保姆の養成をあまり盛んにやつて居るとは思はれない。此れは、幼稚園が盛んでないからと云ふ理由に依ると思ひますが、自分の考へでは、保姆養成所から出た人が、同時に、立派な小學校教員たるの資格あるやうに、程度を高めさへすれば、いくら養成しても、ちつとも心配が入らないと思ふ。少なくとも、高等女學校の卒業生位に、二年位やる程度にしたならば、小學校教員として、師範卒業生に劣らないばかりでなく、兼ねて、幼兒の扱ひを知つて居るからして優良なる女教員と見做されるやうになるであらう。又、色々な點から、母親に代つて世話をしなければならぬ筈の保姆と云ふものは、小學校の學科を授ける教師より、劣つてよい筈はない。寧ろ、老熟なる母親の代理として、少しも遜色の無いやうな人物を要する譯であるから、師範學校の卒業生が、更に保姆養成所に一年以上も入つて、卒業すると云ふやうになるのが、至當であらうと思ふ。若し、程度の低い保姆が入用であるなら保姆養成に、尋常科高等科と二分してもよからうと思ふ。兎も角、幼兒の取扱ひ方を知つて居る教員が、どん〳〵養成されなければならぬと思ふ。

第三　既に述べた通り、小學校に幼稚園を附設するがよからうと思ふ。獨立の建物に、僅か二百坪の運動場を附けるよりは、小學校の運動場に連續させて、二百坪の地面を擴げた方が、小學校の爲にも幼稚園の爲にも、どれ丈便利であるかわからない。建物の方も、諸種の器具機械も、同樣の筆法で、頗る經濟的に出來る、家庭から考へても、兄や姉が、弟妹を連れて行くと云ふ便利もある。かた〳〵私は、幼稚園を、小學校に附設する事を

希望するものである。西洋では、高等女學校に附設してあるところもある。此れは、女學校の生徒が、母親となる前に、幼兒を觀察し、幼兒の世話をすると云ふ事の上に、非常な便益が有るからと云ふ事である。要するに、適當な場所に附設して、其の數を增し、わけて貧民勞働者等の幼兒にして家庭に於ては、世話の届かないと云ふ方のものを成る可く奬勵して出させ、市町村其の他國庫等から、相當な補助金を出して、其の事業を助けると云ふ風に組織すればよいと思ふ。

此處までは、重に幼稚園の組織に關する方面の希望でありましたが、此れからは、幼稚園の內部の仕事に就いての希望となります。

第四　身體を本位とす可し。此れまでもすでに申し述べた積りでありますが、幼稚園の自慢とす可きところは、幼稚園に來ない小供よりは、血色、肉付がよく、何れも立派な體になつて居ると云ふ點でなければならぬ。從つて、往き復へりも成る可く歩かせ、運動を奬勵し、若し眠くてたまらないならば相當の設備をして晝寢をさせるもよろしい。又、貧民の小供等である場合には、西洋各國のやうに、牛乳を飲ませたり、お晝飯を食べさせたりするやうな設備が出來れば、元より理想的である。汗ばんだならば體を拭いてやるとか、すべて、衞生上出來る丈の事を盡くして、體操遊戲等も、あまり小六ケ敷い神經ばかり痛めるやうな事をさけて、のんびりした丈夫な子を理想のものとするがよい。

第五　室外を利用する工夫をこらせ。幼稚園は、名の如く園であるべきもので、幼稚室では無い。隨分、大都會には、輪奐の美を極めた建物もあるが、碌な庭を持たないと云ふところがある。小供は、まるで、雛子か鳥屋の中に入れられたやうなもので、碌な自由な運動が出來ないと云ふ事になる。私は、本當の建物が、よし小さくても、又質素でも、寧ろ、庭を廣く取つて、成る可く、外で日を暮すや

うにさせたいと思ふ。それには、先づ濶葉樹の樹木を植ゑて、夏は日影を拵へ、冬は日當りを害しないやうにするがよからうと思ふ。其の上、出來る事ならば、日當りの方面だけを明け放ししたり、土間の小屋を拵へ、一寸した雨降りや、風の餘り烈しい日などには、其の土間の中で、遊んで居ると云ふやうな事が、餘程面白い。英國あたりではそんな設備をして、其の周圍に、鳥を飼つて居たり、植木鉢を並べたりしてをるが、これでこそ、小供は自然の中の小供であらうと思ふ。

第六　自然を愛せしめよ。此れも、英國を始め、外國の幼稚園では、餘程注意して居る事であるが、日本には、其れ程よく行つて居らぬやうに思ふ。將來の保姆養成所では、是非、動植物の飼養栽培法を十分に心得させ、小供等をして、小鳥や金魚や植物の手入れに、一二時を知らず識らず過ごしてしまふと云ふやうにし度いと思ふ。掛圖に就いて問答をしたり、玩具をいぢくつたりして居るよりは、どれ程上品で、又、健康に有益であるかは、智者を俟たずしてわかる事であります。

第七　直觀材料も成る可く自然物たるべし。小供は、自分で運動して駈け廻る丈でなしに、五官を使つて、外物を能く觀察すると云ふ事が、一つの仕事で、幼稚園の任務の一つであるが、私は、前條に述べた主意からして、直觀材料も、成る可く、自然物であるのを希望する。フレーベルの恩物などは、餘り有難いものとは思はない。學校園に行つて、植物を觀察し、飼つて置く動物に餌をやつたり、色々の世話をして、其處で觀察するやうにならねば面白くない。然るに、今日の幼稚園は、果して小供らに、どれ丈の植物の世話をさせ、どれ丈の動物を擁護させてをるか。

第八　製作も可成自由にすべし。小供は、外物を直觀する事が必要であるのみならず、自分でやつて見、取り扱つて見、作つて見るに依つて本當に其の物に親しみ、本當にその事柄がわかるので

ある。構はずにおけば、彼等兒童は、色々なものをつかまへて見たり、色々なものを拵えて、其れを以つて、或は彼等の實用に供し、或は、眞似事をして悅んで居る。飯事などを見ても、土をこねて饅頭を拵へ、練つた土でお皿や茶碗を拵へ、或は紙を刻んで紙幣を拵へる。此れは最も自然なる技能的、藝術的活動である。そこで、幼稚園の事を論ずる者は、或は衝動の整理だとか、本能の指導だとか云ふ通り、餘り此方で考へ過ぎた事をしないで、成る可く彼等が必要を感じ、彼等が希望を有するやうな事に就いて、知らず識らず、色々な經驗を重ねると云ふやうに仕向けたいと思ふ。從つて、餘り人爲的な、技巧に過ぎた事をやつて、斯樣な製作品が出來ましたよなど云うて、自慢や廣告の道具に使つたり、心ない父兄を瞞着するなどは、愼しむべき事である。小供は、其樣なに、精巧なものを作る必要は無い。自然の發達に從つて行けばよいので、幼兒に向つて、妄りに競爭的に、奬勵をする必要は無い。又從つて、敎師が餘計な手傳などをして、折角の敎育的に意味のある仕事を臺なしにして仕舞ふ必要はない。

第九　早熟を招くなかれ。能く、幼稚園を批評する人は、どうも、幼稚園にやると、小供がこせついて、大人を切り詰めたやうになつていけない。始めは手細工などを器用にやつたり、口のきゝやうが怜悧めいて居る爲めに、一寸効能がある樣に思はれるが、少し經つと、却つて發達が止まつて仕舞ふと云ふやうな事を云ふ。斯る批難は、能く聞くところのものであるが、事實は必ずしもさうではなからうと思ふけれども、今日の多數の幼稚園は、設備が不完全で、碌な庭のないためか、又保姆の不注意のために外でやるやうな仕事を考へなかつたりした結果、狹苦しい部屋の中には入り勝になり、さて部屋の中へ入つて見ると、何十人と云ふ小供を、只放つて置いたのでは、騷ぎ廻はつて惡戲をするに過ぎなくなるのと、今一つは、子供

が飽いて仕舞つて到底、三時間も四時間も續くものではない。そこで、先生やむを得ず、遊戯とか唱歌とか、何か拵へるとか、室内の仕事を多く課する。さうして見ると、遊戯も毎日同じものでは面白くない。唱歌も段々異つたものを教へなければならぬ事になつて、知らず識らず、教へ過すと云ふ事が起る。同じ歳頃の小供を、家庭に於いたならば、三時間や四時間はさて於いて、一時間も三十分でもお稽古事のやうなことはなくて暮す小供を、幼稚園と云ふ所に通はした爲めに、何か、學校めいた樣な仕事をして、日を送ると云ふ事になつて仕舞ふ。此れは、西洋でも、始終警戒せられて居る箇條で有りますが、日本でも、お多分に漏れぬ方であると思ふ。

第十　良習慣の養成所たれ。此れは申すまでもない事で、各家庭に、勝手に遊んで居るのと違つて、多勢のお仲間入をして遊ぶのであるから、意地惡るをしない、自分の勝手ばかり言ひ通さない、規律正しくする、教師の教へに從順になると云ふ樣な、色々の良い習慣を付けるやうにしたいものである。又、小供相應に自分で出來る事は、成る丈自分でするやうに奬勵をしなければならぬ。お付きを連れてだらしない風をして歩く樣な幼稚園は一から十まで何でも大人の手で入らざらん世話をして、行き屆いた幼稚園を自分できめて居るなどは、言語同斷であると思ひます。

以上は、素人の私が、只、思ひ浮んだ事を、お話した丈で、大抵は、既に〳〵、氣の付いてある事や、實行されてある事であるかも知れませんが、折角の御申越しでありましたから、兎も角も申し上て見たわけで、長い間、貴重の紙面を汚した事は、誠に恐縮の次第で有ります。下手の長談議も此れで、いよ〳〵千秋樂に致します。（完）